

新聞に親しみを持ち、活用する子どもたちの育成

丹波市立春日部小学校 校長 谷口 耕平
教諭 藤田 隆太

1. はじめに

本校は丹波市東部にある全校児童数 108 人、すべて単学級の小規模校である。本年度より NIE の実践指定校となり、実践に取り組んでいる。

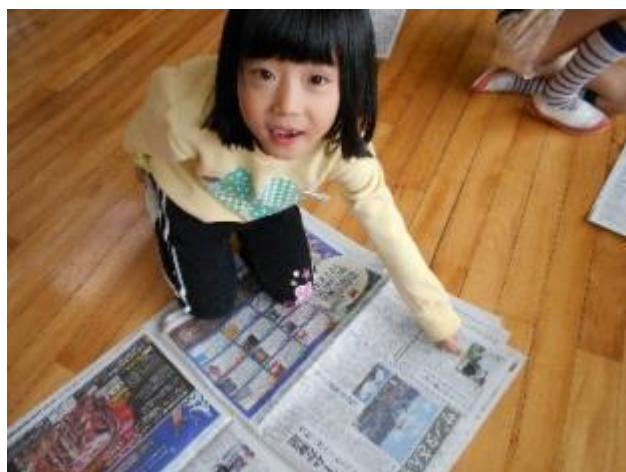
家庭で新聞を取っていないなど、身近に新聞に触れる機会の少ない児童もいる。そこで、中央廊下の 1 階と 2 階に新聞コーナーを設け、いつでも新聞に触れることができる環境づくりを行った。また各クラスの廊下に新聞掲示コーナーを設け、教師が気になった記事などを掲示した。児童委員会でも新聞作成を行い、月ごとに学校のニュースを掲示していく活動を行った。そして「新聞に親しみを持つ」そして「新聞を活用する」というテーマで、それぞれの学年において取り組みを行った。

2. 具体的な実践

【1年生の取り組み】

1年生にとって、新聞は習っていない漢字が多く、読むのは難しい。事前に話を聞くと、新聞を読んだことのある児童は、ほとんどいなかった。だが、授業で新聞紙を使うとき、掲載してある写真や絵などには興味を持っていた。

そこで、新聞をそれぞれに 1 日分ずつ配布し、その中から自分のお気に入りの写真を見つけ、どうしてその写真を選んだのか、理由を考える活動を行った。きれいな写真、面白い写真、自分の住んでいる地域の写真を選ぶ児童が多く、積極的に活動できた。最後に、その写真は記事でどんなふうに書いているのかを教師と一緒に読むことで、内容を理解し、より新聞に親しみ、身近に感じることができた。



【2年生の取り組み】

2年生も1年生同様、読める漢字が少ないので、気になる写真を見つけてくる活動を行った。活動が始まる前は、ほとんどの2年生が新聞を読んだことがなく、関心を待っている児童もほとんどいなかった。

きれいな写真や、気になった写真を見つけてくることで、同じ話題でも新聞社によって違う写真の撮り方だと気づき、楽しんでそれを見つけられた。

また、国語の単元と同じ内容の新聞記事がシリーズで連載されたので、授業でその新聞記事を使って学習し、廊下に掲示した。

写真に着目して新聞を比べて見ることや、学習内容に沿った新聞記事の閲覧を通して新聞を身近に感じることができた。



【3年生の取り組み】

3年生では、社会科「くらしをささえるまちではたらく人びと」の単元「畑ではたらく人びとの仕事」の学習で、地域でブドウを作られている方にインタビューをし、そこで分かったことを新聞にまとめた。

初めて新聞を書いたので、「いつ」「どこで」「だれが」といった5W1Hを入れるなどの基本を押さえてから、話を聞いて一番自分がまとめたいと思った事柄を書くことにした。

ブドウのできる時期や、どんな仕事があるか、ブドウ作りの工夫や苦勞など、メモを基に下書きをし、写真をどこに貼ればよいかなど、レイアウトを中心に考えた。自分が新聞を見る際に、レイアウトを意識することにつながられた。



【4年生の取り組み】

4年生では、社会科の「地いきのはってんにつくした人々」の単元で新聞製作学習に取り組んだ。丹波市と篠山市の境に、鐘ヶ坂トンネルがある。このトンネルが完成するまでにどのような歴史があったか、貢献した人物や旧トンネルのこと、またトンネルが人々の生活にどのように影響していったかを学習し、新聞にまとめて発表した。

子どもたちは「どのようにまとめれば見ていて分かりやすい新聞になるか」に意識を置いて新聞をまとめていった。色の使い方や行間、また挿絵の場所や大きさなど、相談しながら考えていくことで子どもたちの中で良い形を模索し合うことができた。また、同じ学習内容をグループごとにまとめさせたことで、他のグループの発表を見て、同じ学習でも着目点やまとめ方が違う点に気づき、新聞の比べや読みの面白さについても触れられた。



【5年生の取り組み】

5年生では、社会科の「わたしたちの暮らしを支える情報」の単元で新聞製作学習に取り組んだ。

まず単元に入る際、この単元で学習したことを新聞にしてまとめるよう提示した。そして、身の回りにあるさまざまな情報について、私たちがどのように関わり活用しているのかを考えさせた。その後、テレビ放送の仕組みや情報化社会の問題点などを学習していった。神戸新聞社からゲストティーチャーに来ていただき、新聞の秘密や記事の書き方、レイアウトの仕方などを教えていただいた。その講義を生かして、学習したことを新聞にまとめていった。

特に、新聞社から来ていただいたことで、新聞に興味を持ち、新聞形式にまとめることに意欲的に取り組む児童が大変多かった。また、出来上がった作品は廊下に掲示し、お互いの学び合いができるようにした。



【6年生の取り組み】

6年生では、理科の「大地のつくりと変化」の学習で、新聞作りを行った。

この学習では、地層のでき方や変化を実験により学んだあと、市内で発見された「丹波竜」について、発見場所の篠山層群や資料館「ちーたんの館」の見学、化石発掘体験を通して学んだ。まとめとして、学習で学んだこと、学習を通して感じたことを新聞にまとめた。

新聞づくりでは、見出しやイラスト、写真を使ったり、クイズやランキングなど記事の工夫をしたりすることで、読み手の興味を引くよう指導した。また、実際に新聞を見ながら、見出しや記事の配置、写真の入れ方を確かめ、新聞を作った。

実験や現地学習で知った驚きを伝えようと、児童はそれぞれに工夫した表現で新聞を書き上げていた。実際に新聞を見て書くことで、読み手に伝わりやすい紙面の工夫にも目を向けた児童も多かった。

